

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点：8点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

日常生活を送る中で、

B

一編の小説の芯や核となる、

C

情景や状況の捉え難いイメージが、

D

自分自身の脳裏に瞬間的に思い浮かぶということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄二行 一行以下のものは全体不可（0点）

■要素A 日常生活を送る中で…2点

であることを説明していないものは、要素A加点数なし

・影のよつなもの「が」「日常」の中で「閃く」ものであることを説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 一編の小説の芯や核となる…2点

・影のよつなもの「が」「小説の芯・核」になるものであることを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 情景や状況の捉え難いイメージが…2点

・影のよつなもの「が」「捉えがたいイメージ」であることを説明していないものは、要素C加点数なし

■要素D 自分自身の脳裏に瞬間的に思い浮かぶということ…2点

・「わたしの中」「閃く」の言い換えをしていないものは、要素D加点数なし

## ■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

## ■基準 配点：10点

## ■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

スケッチブックに書きとめた古いスケッチを捨てようとした時、

A

後の「十一月」という小説のタネとなった。

B

ページの隅に書かれた文字と数行のメモを見つけて、

C

即座に

D

一編の小説の全体像を

E

細部にまで渡って明確に思い浮かべることができたということ。

## ■採点方法…各要素単独採点

## ■字数…解答欄二行 一行に収まっているものは全体不可(0点)

## ※「スケッチブックに書きとめた古いスケッチを捨てようとした時」は加点要素ではない

## ■要素A 後の「十一月」という小説のタネとなった…2点

- ・「小説の格となるイメージの断片を書きとめた」などでも良い。
- ・スケッチブックのメモは「小説のタネのなったもの」「小説のイメージを書きとめたもの」である説明がされていないものは要素A加点なし。

※『十一月』という小説と具体的なタイトルはあってもなくても良い。

## ■要素B ページの隅に書かれた文字と数行のメモを見つけて…2点

- ・「(スケッチブックの)ページの隅に書かれた文字」「数行のメモ」「言葉」を「見た」ことによって「思い出した」と説明がないものは、要素B加点なし

## ■要素C 即座に…2点

- ・「たどころに」を「即座に」や「〜した瞬間に」のように言い換えている表現がないものは、要素C加点なし。

※そもそも要素Bが間違っている場合は要素C加点なし。(※採点例②参照)

## ■要素D 一編の小説の全体像を…2点

- ・「思い出した」ものが「(当時自分が書くこととしていた)『十一月』という」小説の全体像「であるという」とを説明していないものは、要素D加点なし

## ■要素E 細部にまで渡って明確に思い浮かべることができたということ…2点

- ・「詳細に」「思い出した」ということを説明していないものは、要素E加点なし

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

**基準** 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

クロッキーブックに、思いついたフレーズや登場人物についての詳細、舞台となる町の様子などをあれこれ書き込んでいるうちに、

B

作品の感動につながるイメージが膨らんでいき、

※要素点なし

不安を覚えながらも、

C

傑作が出来上がるかもしれないということを感じ、

D

胸がはずむから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

※「不安を覚えながらも」はなくても良い。

■要素A クロッキーブックに、思いついたフレーズや登場人物についての詳細、舞台となる町の様子などをあれこれ書き込んでいるうちに…3点

・クロッキーブックに書き込む内容を説明していないものは、要素A加点なし

・「クロッキーブックに、題名を中心として連想されるイメージの断片を書きこんでいく作業は」のように、書き込む内容が抽象的な表現で説明されていても可。

■要素B 作品の感動につながるイメージが膨らんでいき…2点

・「感動」の表現がないものは、要素B加点なし

■要素C 傑作が出来上がるかもしれないということを感じ…2点

・「傑作になる予感」について触れていないものは、要素C加点なし

■要素D 胸がはずむから…3点

・「胸がはずむ」「ときめきを感じる」ということを説明していないものは、要素D加点なし

#### 問四 (文系のみ)

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

#### 基準 配点…10点

■模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

大岡氏が、日記文学は飾られた自己の記録であるとしていることは、

B

大まかな日記の概念規定としては理解できるが、

※要素点なし

荷風や馬琴の日記がそうではないように、

C

大岡氏の「作家の日記」も、

D

その概念規定にあてはまらない赤裸々で魅力的な作品であると感じているということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄四行 二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 大岡氏が、日記文学は飾られた自己の記録であるとしていることは…2点

・「大岡氏」の「日記文学」についての評価を説明していないものは、要素A加点なし

■要素B 大まかな日記の概念規定としては理解できるが…3点

・要素Aに対し筆者が「概念規定」としては一定の理解をしていることを説明していないものは、要素B  
加点なし

■要素C 大岡氏の「作家の日記」も…2点

・「大岡氏の『作家の日記』」に触れていないものは、要素C加点なし

■要素D その概念規定にあてはまらない赤裸々で魅力的な作品であると感じているということ…3点

・要素Cは筆者にとって「その概念規定にあてはまらない魅力があること」「その定義を越えた価値を見出している」を説明していないものは、要素D加点なし

## 問五

形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素F不可
- ・句点の扱い…1点減点

### 基準 配点…12点

模範解答 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容

A

クロッキーブックは日常の瞬間に閃いたことの

B

日記的なメモであり、

C

そこに記された断片的な言葉から作品の全体像を浮かび上がらせ、

D

楽しみながら細部を詰めていく作業を通して、

E

作品の感動につながるイメージを膨らませていくためのものであり、

F

自分の創作に欠かせないものだと考えている。

採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行 三行以下のものは全体不可(0点)

■要素A クロッキーブックは日常の瞬間に閃いたこと…2点

・「日常の中での閃き」を説明していないものは、要素A加点なし

■要素B 日記的なメモであり…2点

・「日記的」な働きがあることについて説明していないものは、要素B加点なし

■要素C そこに記された断片的な言葉から作品の全体像を浮かび上がらせ…2点

・要素A・Bをもとに、作品の全体像をつかむということを説明していないものは、要素C加点なし

■要素D 楽しみながら細部を詰めていく作業を通して…2点

・要素Cに「楽しみ」があることについて説明していないものは、要素D加点なし

■要素E 作品の感動につながるイメージを膨らませていくためのものであり…2点

・要素C・Dが「イメージの膨らみ」につながるということを説明していないものは、要素E加点なし

■要素F 自分の創作に欠かせないものだと考えている…2点

・「創作に欠かせない」ということを説明していないものは、要素F加点なし

※「これまでの創作には欠かせないものと考えている」のように「これまで」の表現があっても可。

【第三回京大模試理系第二問】

二

問一

【採点基準】

① ことばはすべて、ことばを聞き、話す主体としての他者を前提とするものであるもので、そのようなものとしてあらわれない自然やそのなかの事物のみを相手にことばが生じることはないということ。

・ ① ≪ 6点、② ≪ 4点で。(計10点)

① ≪ ことばはすべて、ことばを聞き、話す主体である他者 (or 普遍的自己・同類) を前提としたものであることとの説明ができていないこと。「言語行為は常に、ことばを聞き、話す主体である他者を想定して行われるもの」などの表現でも可。「他者」の説明として、「ことばを聞き、話す主体 (or 普遍的自己・同類)」という表現を欠いているものは2点減。また、「すべて (or 常に・必ず etc)」という表現を欠いているものは2点減。

② ≪ ことばを聞き、話す主体としてあらわれることのない (自然やそのなかの事物を相手に直接的にことばが生じることはない) こととの説明ができていないこと。同内容と判断できれば表現の違いは広く許容する。「自然への語りかけやさげびは、間接的なものにすぎない」などの表現でも可。

問二

【採点基準】

① ランガーは、ヘレン・ケラーの自伝の一節を、ことばを理解することによって共同関係に入りこむよろこびを語ったものとして見ず、単純になにかを表示することのできるシンボルにはじめてふれたさいの感動をつづつたものと見ているから。

・ ① ≪ 6点、② ≪ 4点で。(計10点)

① ≪ (ランガーは) ヘレン・ケラーの自伝の一節を、ことばを理解することによって共同関係に入りこむよろこびを語ったものとは見ていない (or ことばの共同性をとらえていない) こと。

② ≪ (ランガーは) ヘレン・ケラーの自伝の一節を単純に、なにかを表示することのできるシンボルにはじめてふれたさいの感動をつづつたものとしてしか見ていない (or こととの説明ができていない) こと。「思考の道具に出会ったことによるこびをつづつたもの」などの表現も可。

## 【採点基準】

① ことばを媒介することによって、個別具体的な個人の特殊性を捨象して、同じことばを聞き、話す主体同士として対等の関係を作っていくことができるということ。

・①＝2点、②＝4点、③＝4点で。(計10点)

① 〈ことばを媒介にすることによって〉(or)〈ことばの存在に気づくこと〉によって・ことばを理解することによって生じるものである〈こと〉の説明ができていること。

② 〈ことばの存在に気づく以前は〉個人は、個別具体的な特殊性の枠組みのなかにいる存在である〈こと〉の説明ができていること。

③ 〈ことばによって個人の個別具体的な特殊性は捨象され〉同じことばを聞き、話す主体同士として対等の関係を築くことができる〈こと〉の説明ができていること。同内容と判断できれば表現の違いは広く許容する。「女教師がことばが通ずる共同性の場において、主体としての他者としてあらわれる」「共同性の場におけることばを聞き話す主体同士の関係に一般化される」などの表現でも可。

① 文（文章）で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。
- ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点（独立採点）すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容（語句）などがある場合は、その内容（語句）を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「…とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

② 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

③ 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。



4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

三 古文 30点

- ▲ 内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。  
問一 傍線部(1)を現代語訳せよ。(10点)

(1)今の世にても思ふことをありのままに詠み出でたらば、えもいはれぬ見苦しき歌どものみ出で来べし。

【模範解答】

今の時代においても、もし思うことをありのままに詠出したとしたら、何とも言いようもないほどの体裁の悪い歌ばかりができるにちがいない。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・D・Eに関して部分採点】

A 今の時代においても、もし思うことをありのままに  
今の時代・当代・当世・現代 等、筆者の生きる時代だとわかればよい。 2点

B 詠出したとしたら、  
仮定条件「詠み出でたらば」が解釈できていればよい。 2点

C 何とも言いようもないほどの  
連語「えもいはれぬ」が解釈できていればよい。 2点

D 体裁の悪い歌ばかりが  
「みつともない歌ばかり」「見るに堪えない歌しか」「ひどい歌だけ」「見苦しい歌ばかり」等、「見苦しき歌どものみ」を否定的に解釈できていればよい。 2点

E できるにちがいない。  
「詠み出すにちがいない」「できるだろう」「出てくるだろう」「出てくるにちがいない」等、「出で来べし」が解釈できていればよい。 2点

問二 傍線部(2)とは、どのようなことか、説明せよ。(10点)

【模範解答】

今の時代の人間の偽りの多い感情のまま、常日頃から古歌や古書に親しみ、様々に言葉を飾り文飾を凝らして、歌の詠み方を見習うことによって、自然に古代の人間のような性情に自分を感化させるということ。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・D・Eに関して部分採点】

A 今の時代の人間の偽りの多い感情のまま

2点

「今の人情にしたがひ」「今の偽り多き情のままに」の要素を抽出できていればよい。

B 常日頃から古歌や古書に親しみ

2点

「平生見聞する古歌古書に心が化せられて」の要素を抽出できていればよい。

C 様々に言葉を飾り・文飾を凝らし・古歌の真似をし

2点

「偽り飾りてなりともれ」「飾り作りて詠み習ひ見習ひ」「昔の人の真似をして」の要素を抽出できていればよい。

D (古歌の) 歌の詠み方を見習う

2点

「ずいぶん古の歌を学び、古の人の詠じたる歌のごとく詠まむ」「古の歌の真似をして…詠み習ひ見習ひ」「昔の人の真似をして詠み習ひ」の要素を抽出できていればよい。

E 自然に古代の人間のような性情に自分を感化させるということ。・自分の性情(情態)が古代の人のように変化する

2点

「古人のやうなる情態にも移り化する」「わが性情もよく化する」「古の人のやうに自然に化する」の要素を抽出できていればよい。

\* 文末表現が「…こと。…名詞どめ。」となっていないものは減点1点。

\* 「古歌」は「古代の歌」「万葉集の歌」「万葉歌」でも可とする。「古書」は「古い書物」「古文献」「古代の書物」等の表現でもよい。

\* 「古人」「古の人」は、「古代の人」「上代人」が最適だが、「万葉人」でも可とし、「昔の人」等の曖昧な表現には減点1点とする。

問三 傍線部(3)はどのようなことを言っているのか、説明せよ。(10点)

【模範解答】

後世の歌は様々に言葉飾り文飾を凝らしていて、真実の表現ではないので、上代の万葉歌のように質朴に真実の感情をそのまま表現するのがよいということ。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・C・Dに関して部分採点】

A 後世の歌(当世の歌)は様々に言葉を飾り・後世の歌(当世の歌)は文飾を凝らしてい

2点

「後世の歌は偽り飾りて」「今の人情の偽り多きを憎み」の要素を抽出できていればよい。

B 真実の表現ではない・実情を詠んだものではない

2点

「まことにあらず」の要素を抽出できていればよい。

C 上代の万葉歌のように質朴に(素朴に・純朴に)

3点

「上代の質朴なる(注に『万葉集』の歌風のことをいう)」とある(「の要素を抽出できていればよい。

D 真実の感情(実情)をそのまま表現するのがよいということ。

3点

「実情なり」「その情をありのままに詠め」の要素を抽出できていればよい。

\* 文末表現が「…こと。…名詞どめ。」となっていないものは減点1点。

\* 「上代の質朴なる」は、注に『万葉集』の歌風のことをいう」とあるのでこれ以外は不可とする。